

## 「東山梨教育研究第 54 号」の発刊に寄せて

甲州市教育委員会 教育長 保坂 一仁

「東山梨教育研究第 54 号」の発刊にあたり、東山梨地域の教育力向上のために日々ご尽力されている、先生方をはじめ教育関係者の皆様に、心より感謝と敬意を表します。

昨年 12 月、中央教育審議会は、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」など、今後の教育の方向性を示すいくつかの答申を行いました。

「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」では、激しく変化をしていく時代に対応できる、教員の資質の向上と「教員は学校で育つ」の考えにたった研修システムの構築を、また、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」では、多様化・複雑化する子どもの状況や新たな教育課題に対応するため、専門性に基づくスタッフが、様々な業務を連携・分担して職務を担うチーム体制の構築を、そして、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」では、時代の変化に対応するため、学校を核として地域と連携・協働した学校づくりの必要性を答申しています。どれも、これからの社会の進歩や変化のスピードが速まる中、学校や教職員が直面し、そしてまた、対応していかなければならない改革が述べられています。

さて、東山梨教育協議会の研究の成果を収録した「東山梨教育研究」も、今回で 54 号目を数えます。教職員をはじめとした東山梨に集う多くの教育関係者により紡ぎ続けられたこの集録は、その時代その時代の関係者の努力やエネルギーを収めた資料的・記録的価値はもとより、東山梨の子どもたちのよりより成長のために、教育三者と P T A や行政などの教育関係各者が、主体的、協働的、自治的に連携し、「OJT などを基本とする教職員の資質の向上に資する組織的な研究活動」「専門性にもとづいた教職員チームの構築」「学校を開き、保護者や地域の方々とともに進める教育活動」などを行ってきた歴史の積み重ねであることに改めて気づかされます。これは、今まさに進められようとしている教育改革と意図を同じにしたものであり、そのような歴史に思いをはせるとき、先達の先見性と東山梨教育の歴史的な重みを感じずにはられません。

「論語」述而篇に「子曰く、我生れながらにして之を知る者に非ず。古を好み、敏にして以て之を求めたる者なり。」（子曰、我非生而知之者、好古敏以求之者也）という言葉があります。孔子のような君子も道を求める際、昔からの教えを懸命に学んだように、この「東山梨教育研究」が教職員の皆様に大いに活用されることを願っております。

結びに、東山梨教育と教育関係各位のご尽力に敬意を表すとともに、益々のご発展をご祈念申し上げます。